



有限会社イシダ

所在地 山口市黒川広瀬378番2号（工場）
山口市湯田温泉一丁目8番13号（本社）

連絡先 TEL 083-922-2167
メール igusa@isidatatami.com

H P <https://isidatatami.com>

代表取締役 石田昭典

●沿革

大正15年 創業
平成 2年 有限会社イシダとして
法人化
令和 8年 創業100周年



ホームページ



今月号では、今年で創業100周年を迎えられた(有)イシダ(石田畳店)の代表取締役 石田昭典氏にお話を伺いました。

●家族で繋ぐ100年の畳づくり

大正15年1月、先代の石田國一が石田畳店を創業し、今年でちょうど100周年を迎えました。湯田温泉で創業しましたが、作業場が手狭になったことなどから、23年前より平川の工場に主な機能を移しています。

畳の仕事は15歳の頃から広島県三原市で修業しており、4～5年ほど経験を積んでから、縁あって石田家に入り二代目となりました。現在は7人兄弟のうち次男の紀昭と、六男の真吾と一緒に仕事をしています。紀昭は大阪で百貨店やスーパーなどの店舗改装の仕事に携わっていたのですが、会社の将来を考えて「後を継いでもらえないか」と相談し、約25年前に山口に戻ってきてもらいました。真吾は短期大学を卒業した後、家業へ入りました。2人には技術を承継しただけでなく、ホームページの作成や情報発信など私が苦手なデジタル分野でも活躍してくれているので助かっています。



左から石田真吾氏、代表取締役の石田昭典氏、専務取締役の石田紀昭氏

●伝統品質と現代ニーズへの対応

当社では、「三本の矢」にかけて、畳の製造には針を使うことから「石田畳店『三本の針』」として、「【温故知新】歴史を知り、未来に活かします」「【切磋琢磨】日々精進し、腕を磨きます」「【以和為貴】日本の美徳、和の心を大切にします」という3つを指針にしています。

畳の製造においては、材料を仕入れ、芯材となる畳床に畳表（ござ）や畳縁（へり）を縫い付けるなど自社で加工し、現場に設置するまでを一貫して行います。近年では畳づくりは機械を使って行うことがほとんどになりましたが、手で作れることが基本となります。手で出来なければ、機械を使っても応用が利きません。国家資格の技能検定は、制限時間内に手縫いで畳を仕上げることが求められます。当社ではその検定をクリアし、施工に当たる全社員が一級畳技能士を取得しており、確かな技術を提供できます。



畳をつくる様子

そのほか、畳ドクター認定店であり、また、職業訓練指導員免許の取得者が2名、厚生労働省が認定するものづくりマイスターも2名おり、学校での指導も可能です。山口県畳技能士会の事務局も請け負っています。

お客様は個人住宅だけでなく、工務店、ハウスメーカー、法人、ホテル、神社仏閣等です。去年は山口市菜香亭の畳の張替えを手がけました。菜香亭では天然い草仕様の畳表の伝統畳を入れました。

最近流行の和紙や樹脂（工業畳表）等は、時代の変化や生活様式にあわせて、天然い草の風合いや肌触りを表現したものです。このような畳は変色しづらく、耐久性に優れ、汚れにくいなどの特徴があり、色やデザインのリッチも豊富です。最近の新築住宅では縁無し畳を使用することが多くなり、和洋折衷の空間にも自然に溶け込むデザインが求められています。

伝統の品質を守りながら、伝統を守るだけでなく、時代の変化に合わせて進化し、現代の住まいに合った対応をできることが、今の畳店に求められている役割だと感じています。



山口市菜香亭

● 畳の魅力伝える挑戦

近年は住宅設計から和室が減り、畳のない家が増えました。畳業界としては厳しい状況にあると言えます。だからこそ、畳の良さや魅力を積極的に発信することが必要だと考えています。

その一環で、畳の製造や設置工事だけでなく、畳の素材をベースにした工芸品の制作活動も続けてきています。このような作品を作ろうと思ったのは、技能グランプリに挑戦したことがきっかけでした。60代で出場し、思うような結果が出なかった悔しさから、要因は自らのメンタルの面にあると受け止めて、克服するためには「もっと難しいことに挑戦しよう」と考えたのです。そこで、通常は平面体である畳を立体作品にすることで技術を磨き、作品を見てもらうことで畳に関心を持ってもらうきっかけをつくることを目指しました。



湯田温泉の本社外観



本社に展示されている畳工芸品
「国宝 瑠璃光寺五重塔」



平川工場のアトリエに飾られている「ちよるる」などのオブジェ

最初に制作したものが高さ2メートルを超える「国宝 瑠璃光寺五重塔」でした。初めての取り組みだったので試行錯誤を繰り返しながら仕事の合間に制作を進め、完成まで1年を要しました。そのほか「岩国城」や、山口県PR本部長(公式キャラクター)の「ちよるる」なども制作しています。それぞれの畳工芸品は、市内外の施設や、様々なイベントで展示してきました。



ミニ畳づくり体験の様子

現在、作品の一部は創業した場所である湯田温泉の本社に展示しています。展示するようになったのは、2年前にニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52カ所」に山口市が選ばれたことがきっかけです。

創業した当時、本社のある通りは当社のほかにも多くの商店が立ち並ぶにぎやかな通りでしたが、時代の流れとともに駐車場になるところが増え、当時と比較すると寂しい印象になってしまいました。そこで、通り掛けに見て目を引くもの、面白いものを置けば、訪れた方に楽しんでもらえるのではないかと、五重塔や岩国城等のオブジェとともに、小物作り体験と販売店として整えています。又、夜でも楽しめるように、夏は20時まで、冬は19時まで照明はつけておりますが、この事が話題になり、メディアに注目されて複数のテレビ局から取材を受けて放送される事になりました。



県内の畳職人3人で共同制作した
長さ4mの「SLやまぐち号」

● 国際交流で日本の文化を世界へ発信

数年前から、海外の若者とICYE JAPAN (NPO法人 国際文化青年交換連盟日本委員会) のご紹介により、ホームステイをホストファミリーとして受け入れて、国際交流が出来る機会がありました。その間、観光や体験を通して、山口の歴史や文化を研修し、ものづくりの楽しさと畳の良さを共有する事が出来ました。

このようなふれあいにより、畳を海外にアピールするチャンスとなり、海外に向けて畳の素材を使った小物の販売をする話が進んでいます。

海外での販売には様々な壁もあると思うので、国内でしっかりと認知度を高め、畳の価値を理解してもらい取り組みを進めながら実現できたらと考えています。

時代の流れ、変化が早く、何をするのが良いのか分からないというところはあります。ただ、畳は良いものだと多くの人知っているはず。和室が減っている時代だからこそ、新しい素材やデザイン、そしてミニ畳づくりといった体験活動などを通じて、畳の良さを広く伝える取り組みを続けていきたいと思えます。

出会いは大切に
ふれあいに真心を
絆はより強く



We value encounters.
We interact with sincerity.
The bond will be stronger.